

第4回あいづ創生市民会議 会議要旨

【日時】 2015/07/29 18:30~20:40

【場所】 会津稽古堂 3F 研修室 2、3

【市民会議 参加者】 出席 26 名、欠席 16 名

【会津若松市 参加者】企画調整課(4名)

【日本経済研究所 参加者】社会インフラ本部 (2名)

【配付資料】

- ・第4回あいづ創生市民会議 次第
 - ・参加者名簿
 - ・第3回あいづ創生会議各分科会発表概要(平成27年7月29日現在)
 - ・第4回市民会議資料
-
-

【議事】

1. 開会 (企画調整課)

2. 説明

① プログラム内容等について説明 (日本経済研究所)

- ・今後のテーマ
- ・「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」とは
- ・会津若松市のストーリーづくりについて
- ・発表の手順

② 質疑等 (参加者より)

- ・女性が住みたいまちづくりという場合、対象とする女性の年代はあるか。また、まちというのは、郊外か中心部か？
 - ⇒ 自由に考えていただいてよい。グループ内で前提を決めて発表しても、意見を全て並列で発表してもよい。(日本経済研究所)
 - ⇒ 状況の設定についても自由に意見していただきたい。(企画調整課)

3. WS (進行役：日本経済研究所)

① 1巡目

- ・各部会の視点から考える「女性が住んでみたいまち、住み続けたいまち」について各自ポストイットに記入し、グループ内で発表
- 1. サービス・機能・施設等の充足状況、2. 1の中で、会津若松が優れている、特色がある、充実している事柄、3. 1の中で、改善が求められる取り組み/新しい政策提案、4. 会津若松として、らしさをだすために、今後チャレンジすべき取り組み の4つに分類しポストイットを貼付。

② グループ内討議

- ・各分科会において政策のストーリー建てについて協議
- 以下の質問、答えのイメージで政策のストーリーをまとめる。
 - 質問：会津若松市はどのようなまちですか？
 - 答え：「女性が住んでみたい、住み続けたいまち」です。なぜなら、会津若松市では、1. のような点が優れています。特に2. は、会津若松市ならではの取り組みと考えられます。また、

今よりもさらに良くなるように3. のような取り組みを行っています。4. は会津若松市独自のチャレンジです。

③ 各分科会発表

i) きょうどう分科会

- ・現状、優れている点は、三世帯同居が多く女性が働きに出やすい環境があることである。
- ・会津らしさとして、飲食店や農業など、副業の機会がある。特に、飲み屋が多いため、女性の仕事の機会がある。
- ・さらに良くなるためには、若い世代や女性のコミュニティへの参加、男性の就労時間を減らす、休暇を取りやすくするなどの労働条件の向上、家族で遊べる施設の充実をする。
- ・横のつながりを生かして、男女ともに働きやすいまちづくりをする。

ii) まちづくり分科会

- ・世界に向けて発信する「みんながくらしやすいまち」を前提に考えた。
- ・隣近所の顔がわかる、地域の包容力がある、健康を気遣う地物の食べられる店が多い、呑んべえ横丁が足りているという点が現状の優れている点である。
- ・現状から考える将来像として、公共施設やイベントの際に託児所（ソフト・ハード）を整備すれば、女性が参加しやすい。地下駐車場があれば、雪を気にせずに子連れで外に出られる。女性も入りやすい飲み屋、惣菜横丁があればよいのではないか。
- ・会津らしさとして、食、会津もめん、うるしのアクセサリ、七日町、ならぬものはならぬという点などがある。
- ・会津らしさを出すチャレンジとして、重要なのは「個性」。都会を目指さず、東京を意識しすぎない、裏通りの魅力のある、きれいにしすぎず隙があるようなまちづくりをする。空き店舗の活用をする。給食の器をうるし塗の器にするなど、うるしの器を日常使いしてはどうか。

iii) しごとづくり分科会

- ・会津若松市は、医療が充実しており、生活費が安く、暮らしやすい、子育てしやすいまち。
- ・特に、18歳までの医療費が無料であり、小・中・高の授業料が無料。こどもクラブも多くある。
- ・今よりさらに良くなるために、保育園・幼稚園も無料化する。施設の拡充により、仕事も生まれる。マイナンバー制度も始まるため、その人にあった情報提供をする。良いまちにひとりではもったいないので、婚期の人を集めて、縁結びのマッチングを拡大する。仕事のマッチングを行う。
- ・会津若松市ならではのチャレンジとして、子育てにかかる費用をすべて無料化する。子ども時代は会津で過ごし、若者は東京に出て、子育て世代になれば会津に戻り、老後まで会津で過ごす。会津に戻ってきたときの受け皿となる仕事をつくるために、I・Uターン企業支援、介護事業などへマッチングする。また、何でもよいので女性の世界一になった方に賞金を出し、賞金ハンターの仕事をつくるというアイデアも出た。

iv) ふくし分科会

- ・現状として、1. 医療介護・福祉施設が充実している、2. 自然豊かな環境である、3. 交通機関が充実している、4. 総合商業施設があるという良いところがある。
- ・女性が仕事を継続することが可能であり、高齢者が安心して住める。幼稚園・保育園が多いので待機児童もゼロである、スポーツジムや高齢者の運動などが盛んでありコミュニティも充実しているという会津若松らしさがある。
- ・将来努力するものとして、除雪がある。除雪についてはスノーバスターズの活動もあるがより

取り組む必要がある。会津独特の閉鎖的な部分があり、他の地域から来た女性になじみにくいときく。他の地域から移り住んだ女性の交流の場としてサロンづくりをする。

- ・将来の取り組みとして、女性初代市長の誕生を目指す。会津には多くの女性先駆者がいるので、その承継教育、母子家庭の就労教育をおこなう。歴史的ポイントをもっと宣伝し、楽しんで歩けるまちづくりをする。会津伝統文化のおしゃれなまちづくりをする。

v) ひとつづくり分科会

- ・ひかえめかつ夢をもって考えた。
- ・住みよいポイントは、自然が豊かで人の優しさがあるところである。
- ・優れている特色としては、自然が豊かで季節感があるところ、会津大学があるところ、産科・小児科が人口の割に充実しているところがある。
- ・改善が求められること、新しい政策として、中学までの学校の無料化、会津大学を総合大学にする、映画館、美術館をつくる、夫・妻の安定した収入をつくる。
- ・チャレンジすべき取り組みとして、会津らしい体験ができるテーマパークをつくる。食、子ども遊び、地産地消、教育、女性らしさなど。

⇒ 各グループに市職員・日経研が入り、進行支援を実施した。

⇒ 各分科会でストーリーをまとめ、各グループの代表が、全体に向けて発表した。

④ 全体講評（進行役）

⇒ 難しいテーマに対して、具体的提案があったとの講評。今後、分科会ごとに話し合いを深め、具体的施策の提案の総合計画への反映を検討していくことを示唆。

3. 事務連絡（企画調整課）

⇒ 次回の市民会議は8月25日（火）会津稽古堂1階で実施。

4. 閉会（企画調整課）

以上